



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～認知症の理解～

問 次の記述のうち、適切なものには○、誤っているものには×をつけ適切なものに修正しなさい。

1. 高齢者の認知症が病気とみなされるようになったのは、幕末から明治期にかけて導入された西洋医学の考え方に基づくものであった。
2. 明治初めに設置された精神病院、その後の癲狂院が主に認知症の人に対する処遇を行なった。(癲狂院のあとに精神病院)
3. 1963年に老人福祉法が制定され、高齢者が福祉の対象となった。
4. キットウッドが提唱したパーソン・センタード・ケアは、認知症ケアをまさに「提供者本人」中心のケアであるとする。(認知症の人中心)
5. 人を中心としたケアとは、その人らしくあり続けるための援助であり、本人にできる限りの自由を保障することである。
6. 1984年に痴呆性老人処遇技術研修事業が開始された。
7. 1990年にグループホームが独自開設され、その後制度化された。
8. 2000年に身体拘束ゼロ作戦が提唱された。
9. 2002年に介護保険制度が開始された。(2000年)
10. 2015年に認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)が発表された。
11. 新オレンジプランでは、高齢者の6人に1人が「認知症の人またはその予備軍」としている。(4人に1人)
12. 新オレンジプランでは、認知症の人は2025年には700万人前後に減少すると推計している。(増加)
13. 厚生労働省が2012年に公表した「認知症高齢者数について」によると、「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者は280万人で、人数が最も多い居場所は施設であった。(居宅)



介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～認知症の理解～

14. 介護保険制度により、要介護認定を受けることで、施設のためのサービスを利用できるようになった。(施設と居宅)
15. 2014年の介護保険法の改正により、包括的支援事業に認知症総合支援事業が加わった。
16. 地域密着型サービスは、市町村に居住する人を利用対象者としている。
17. 新オレンジプランの7つの柱に、若年性認知症施策は入っていない。(入っている)
18. 新オレンジプランの7つの柱に、研究開発が含まれている。
19. 2017年の介護保険法の改正により、「認知症に関する調査研究の推進等」が「認知症に関する施策の総合的な推進等」に改められた。
20. 認知症によって判断能力が不十分な人を保護し、財産管理や身上監護に関する契約等の法律行為全般を支援する制度として民生委員制度がある。(成年後見制度)
21. 認知症高齢者のうち、判断能力が不十分だが契約の内容について判断し得る能力を有していると認められる人が、地域において自立した生活が送れるよう、日常的な生活援助の範囲内での支援を行うものとして日常生活自立支援事業がある。
22. 記憶障害では、古い記憶から障害される。
23. 見当識障害とは、時間、場所、人物などの日常生活に必要な情報を理解する能力が失われることである。
24. 実行機能障害とは、計画を立て実行することができなくなる状態である。
25. 進行しないもの忘れは、認知症によるもの忘れである。
26. 軽度認知障害 (MCI) では、日常生活に支障がある。
27. うつ病は、認知症と間違えやすい。
28. 認知症の場合、発症後すぐに失禁が起こる。



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～認知症の理解～

29. アルツハイマー型認知症の発症は、急激に進行する。
30. アルツハイマー型認知症では、軽度な状態から徘徊がみられる。
31. アルツハイマー型認知症と比べて、血管性認知症は男性に多い。
32. パーキンソン症状がみられるのは、前頭側頭型認知症である。
33. レビー小体型認知症では、人格変化がみられる。
34. クロイツフェルト・ヤコブ病は、急激に進行し、初発症状から6～12か月で死に至る認知症の原因疾患である。
35. 頭部打撲の履歴があり認知症の症状がみられた場合には、正常圧水頭症を疑う。
36. 慢性硬膜下血腫は、シャント手術により認知症の症状の改善が期待できる疾患である。
37. 若年性認知症とは、40歳未満で発症した認知症のことである。
38. ミニ・メンタル・ステイト検査（MMSE）は、認知症の診断スケールで、日付や計算、図式模写などから構成されている。
39. FAST は、血管性認知症の症状ステージを示したものである。
40. 行動・心理症状（BPSD）は中核症状と異なり、認知症の人に必ず現れるわけではない。
41. 常同行動とは同じ動作を繰り返すことをいい、前頭側頭型認知症で多く見られる。
42. 感情を抑えられなくなる感情失禁は、アルツハイマー型認知症に多く見られる。
43. 現実にはないことを見たり、聞いたりすることを錯覚という。
44. レビー小体型認知症に特徴的な知覚のおける症状は、幻視である。



介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～認知症の理解～

45. 妄想は、認知症の中核症状である。
46. 認知症における妄想は、被害感が出てくる場合が多い。
47. BPSD を抑制・禁止することは、認知症高齢者の不安感を助長させる。
48. 認知症高齢者は、環境が変化することによってダメージを受けることが少ない。
49. 介護者や周囲の人と信頼できる関係を形成することは、BPSD を軽減する効果がある。
50. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）では、家庭的な雰囲気によって、症状の安定が図られる。
51. 認知症の総合的な対策として、認知症介護実践者への研修の企画立案がある。
52. 認知症の総合的な対策として、早期診断・発見・専門医療がある。
53. 地域包括支援センターは、第2号介護予防支援事業の役割がある。（1号）
54. 地域包括支援センターは、介護サービス計画の作成を行う。
55. 認知症サポーターとは、地域で暮らす認知症の人やその家族を応援する認知症サポーター養成講座を受講した人のことをいう。
56. 認知症サポーター養成講座の実施主体は、企業団体のみである。（+行政など）
57. 2018年現在、認知症サポーター養成の目標人数は達成していない。（達している）
58. 2020年度末までに認知症サポーターを1200万人養成する目標を掲げている。
59. 認知症の早期診断・早期対応のための体制整備として、かかりつけ医の認知症対応力向上がある。
60. 認知症の早期診断・早期対応のための体制整備として、認知症サポート医の養成がある。
61. 認知症初期集中支援サービスは、特別養護老人ホームに配置されている。（地域包括支援センタ



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～認知症の理解～

一)

62. 認知症初期集中支援チームのメンバーに作業療法士が含まれる。
63. 認知症疾患医療センターは、地域における医療と介護の連携の拠点として、認知症の的確な診断をする場所である。(＋包括支援センターやかかりつけ医との連携)
64. 新オレンジプランにおいて、認知症ケアパスの積極的活用を推進されている。
65. 認知症地域支援推進員は、介護老人保健施設に配置されている。(地域包括支援センター、認知症疾患医療センター)
66. 認知症の人を支える家族への支援として、家族が行ってきた介護方法を修正することである。(尊厳する)
67. 認知症の人を支える家族への支援として、家族の介護負担の軽減を考える。
68. 家族が一時的に休息する時間が取れるように支援していくことを、ピア・カウンセリングという。(レスパイトケア)
69. 家族が一時的に休息する時間を取れる介護サービスとして、施設入所がある。(在宅サービス)
70. 家族が一時的に休息する時間を取れる介護サービスとして、訪問介護がある。
71. 認知症以外の疾患があり、BPSD が出現している場合、治療のために本人が入院すること手段の一つである。
72. 新オレンジプランとして「家族向けの認知症介護教室などの普及促進」がある。
73. 認知症カフェとは、認知症の人のみ参加可能である。(だれでも参加できる)
74. 若年性認知症の場合、経済的負担の軽減のため雇用保険制度が利用できるように支援する。
75. 若年性認知症の場合、障害者福祉サービスの利用はできない。(できる)